

## 六十里越（裸山乗越）を歩きました。

調査日：2022（令和4年）9月25日（日）

参加者：諏訪恵一、松井潤次、廣井博行、井口光利、井口礼子、渡辺 茂、  
小野寺昭彦、佐久間雅義 合計 8名

六十里越街道は、堀之内宿（旧北魚沼郡堀之内町）から破間川沿いに大白川へと進み、浅草岳の南側を越えて田子倉（南会津郡只見町）へと通じる旧街道である。古くは源義経が奥州に逃れる際にここを通過してとの伝説や記録があるらしい。中世には越後と会津の間での戦の為に重要な軍用道路になったとある。

今回は、古道が不明瞭で歩くことができないため、一本松沢沿いに林道を吹き峠（裸山乗越）まで歩き、その後、電力の巡視路と思われる横倉沢を巻いた道を六十里越まで歩いた。そのため、古道を忍ばせる史跡や遺跡にお目にかかることはなかった。

7時30分に道の駅いりひろせに集合だったが、全員が7時前には集合し、分乗して一本松沢沿いの林道の車止めゲートまで向かう。7時45分にゲートを出発。



林道を進むと数か所で沢と交差するが、すべてが林道の下を通過しており、きれいな水が流れている。



舗装は途中で途切れ、道幅はあるものの車で通れない状況の部分もあるが、歩くには危険な場所はない。

9時5分に**吹き峠（裸山乗越）**に到着。特段標識のようなものはなく、左に折れて進むと東北電力の巡視用小屋があり、その手前にはヘリポートがある。



(**吹き峠**付近の様子)



(東北電力巡視用小屋。手前の一段下がったところがヘリポート)



(ヘリポートで記念撮影を行う)

9時47分、ヘリポートで休憩ののち吹き峠に戻って、記念撮影を行って、六十里越への縦走路を進む。この道は横倉沢を巻く形で六十里越から鬼が面山・浅草岳への縦走路へと向かっている。





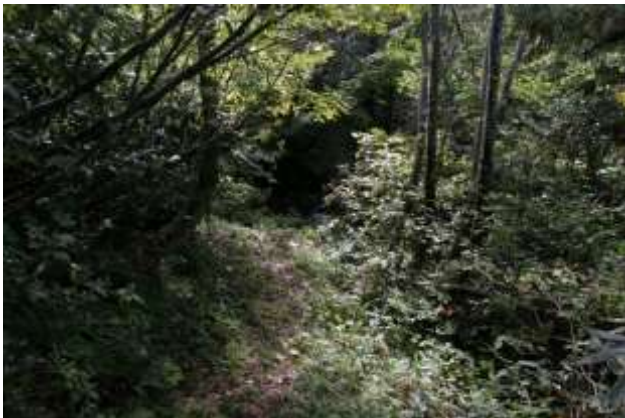


縦走路を 500m ほど進むと、道は自然と地形図のルートを外れていく。ただし、付近にそれ以外の踏み跡は見つからない。そのまま進むと道は送電鉄塔に行きつき、正面には裸山が見える。



そのまま進むと、鎖のある急坂を上り、地形図上の縦走路に戻るが、ここでも地形図の示された道らしき踏み跡はない。

この縦走路上にはしっかりした踏み跡はあるものの、小さな沢の渡渉が数か所あり、また、人が歩くのがやっとの道幅の場所もある。



(しっかりした踏み跡)



(一人一人が歩ける道幅)





(小さな沢の渡渉が多い)

11時20分、六十里越から鬼が面山・浅草岳への縦走路に合流する。



(標識の上半分が無い為め確実ではないが、  
「吹き峠ヨリ大白川へ至ル」と記されているものと思われる)

12時ちょうどに**六十里越**に到着し、吹き峠から林道車止めゲートに戻り車を六十里越トンネル入り口へと搬送したメンバーと合流して、昼食となる。



12時55分、浅草岳六十里越登山口に到着し、本日の全行程を終える。



(報告：諏訪恵一)